

超小型マイクロシーケンサの最新技術動向

小林 裕*
横川伸介*

要 旨

マイクロシーケンサの新シリーズ FX 1Sシリーズ及び FX 1Nシリーズを開発し、順次量産化している。入出力点数128点以下の小型シーケンサ分野は、リレーやタイマなどの単品制御パーツの置き換えからその製品化がされてきたが、現在その用途は多岐多様にわたり、それに伴い、小型シーケンサにも多機能・高性能が要求されてきている。

さらに、昨今のコスト抑制指向により、もともと低価格であるこの分野の製品にもコストダウン要求がされてきて

いる。

このような様々な要求にこたえるために、製品の性能向上、新技術の取り込みなどを積極的に行った小型シーケンサFX 1Sシリーズ及びFX 1Nシリーズを開発した。今後の小型シーケンサの主力となるこれらのシーケンサの製品紹介をするとともに、開発に際し取り入れた新技術や手法などを紹介していく。さらに、これら主力機種今後の機種展開についても述べる。



FX 1Sシリーズ

FX 1Sシリーズは、入出力点数10点 / 14点 / 20点 / 30点のスタンドアロン形シーケンサであり、それぞれの機種で4種の形態が可能である。写真中央は標準形、写真右は小型液晶表示モジュールFX 1N・5 DM装着形、写真左は機能ボード装着形で、通信関係ボード3種、アナログボリュームボード、特殊増設機器接続用変換ボードが装着できる。さらに、この機能ボード装着形の上にFX 1N・5 DMを装着することも可能である。